

高齢者通所介護事業所における介護職員の精神的健康と感情労働に関する一考察

○ 早稲田大学大学院 塚本 恵里香 (008550)

キーワード：介護職員 精神的健康 感情労働

1. 研究目的

通所介護事業所の介護職員は、利用者との関係性を構築しながら、介護の質に対する取り組みを行う介護という労働を行っている点で、様々な業務上の負荷があると言われている。これらの負荷に関する検証は、職場満足度やストレスの傾向などの視点から、多くの研究報告が行われてきた。しかし、介護業務の負荷に関する考察をより深めるためには、従来の研究に加え、介護職員の介護業務における感情マネジメントに焦点を当て、介護業務における情動を総体的に捉える必要があると考える。近年、対人の思いに着目する研究的視点として、感情労働 (Hochschild 1983=2000) に関する検証が、欧米を中心に行われている。感情労働とは、自己の感情管理を必要とし、他者の感情に働きかける仕事と定義され、我が国でも看護業務に関わる研究は蓄積され、多角的な検証が行われている。しかし、介護業務に関する研究は、介護の質やバーンアウトに関わる研究(三橋 2007、二木 2010)を中心に行われているものの、研究報告は少ない。そこで、本研究では、介護職員の介護業務にかかわる情動を包括的に把握するために、介護職員の健康状態・職場満足度が感情労働に与える影響について検討し、今後の研究に何らかの示唆が得られることを目的として、質問紙調査を行った。

2. 研究の視点および方法

<対象者>東京都 A 市通所介護事業所 130 施設に勤務する介護職員・相談員・看護職員。

<調査期間>2012 年 6 月～2012 年 7 月

<調査方法>質問紙調査による、①フェイスシート (8 項目)、②SF-8、③職場満足度尺度 (安達 1998)、④感情労働尺度 (荻野ら 2004) を、通所介護事業所施設長あてに郵送にて配布。有効回答数 123 件。

<分析方法>「身体的健康」「精神的健康」「職場満足度」が「感情労働」に及ぼす影響について、共分散構造分析によるパス解析を行った (IBM AMOS 20)。

3. 倫理的配慮

本研究への参加について、研究への参加は任意で質問に対する回答は、協力者の自由意思であり、質問紙への回答をもって、調査協力への同意を得たものとなる旨を明示した。また、協力者のデータや個人情報には直ちに匿名化され、個人が特定されることはなく、この研究を遂行し、その後検証するために必要な範囲においてのみ利用する旨を説明した。

そして、質問紙への協力に際しては、回答者の回答内容が保護されるよう、質問紙と同数の個別封筒を同封し、封筒口をのりづけの上、回収担当者へ手渡されるよう配慮した。また、研究に参加しないことによって、不利益な対応を受けることはなく、この研究に同意し、協力した後においても、不利益を受けることなく同意を撤回することができることを説明した。その場合、質問紙と集計結果を入力したデータは破棄され、それ以降は、それらの情報が研究のために用いられることはない点も明示した。

4. 研究結果

「身体的健康」「精神的健康」「職場満足度」の3因子が感情労働に影響を及ぼすと仮定し分析した。モデルの適合性を確認しながら、有意ではなかったパスを削除し分析を行った結果、最終モデルとして、モデルの適合性が得られた図1のパス図を採用した。

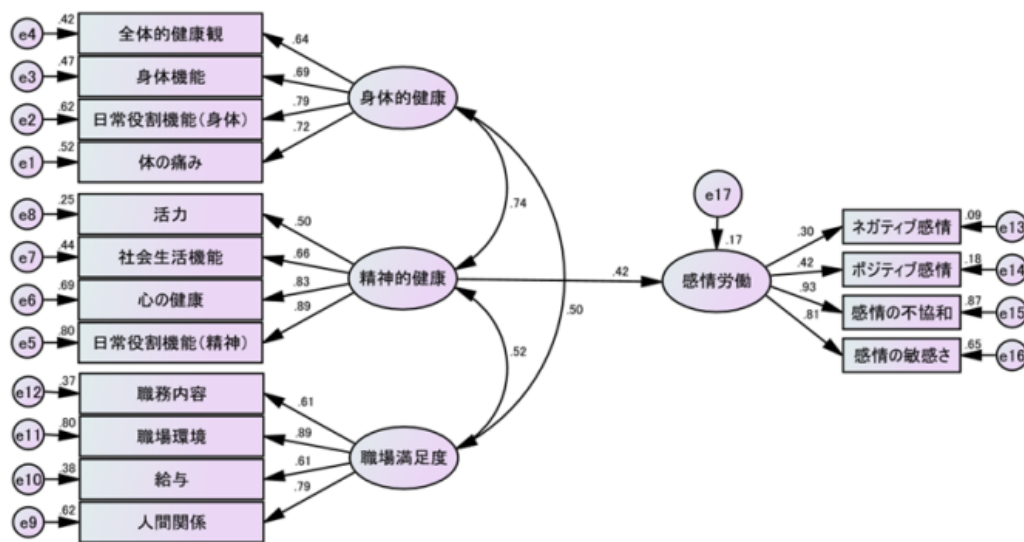


図1：介護職員の感情労働に影響を及ぼす精神的健康

モデル適合の要約は、 $\chi^2=189.924$ 、 $df=100$ 、 $p<.001$ 、 $GFI=.841$ 、 $AGFI=.784$ 、 $RMSEA=.086$ 、 $AIC=261.924$ となった。分析の結果、「身体的健康」「精神的健康」「職場満足度」の3つの要因には、それぞれ正の相関関係が認められるが、感情労働に直接、影響を及ぼしている因子は、「精神的健康」のみであり、中程度の正の有意なパスを示すことが確認された。

5. 考察

図1から、自分自身の延長として利用者をとらえる (Mayeroff 1971=1987) 介護職員は、利用者が望む支援の方向を肯定的に支援するために、感情労働を行うことで自己実現を果たし、精神的健康を高めている可能性があることが示唆された。